

テーマ1 本気で挑戦～これからの教育を一緒に考えよう～ 荒井 優氏 (札幌新陽高等学校校長) 校長になる前はソフトバンクに勤務。学校教育の外からやってきた荒井氏は、参加者へ「本気ですか。誰かのせいにしていませんか。」と問いかけられました。東京勤務経験を通じ、北海道は本気で挑戦していない、国など誰かのせいにしていく風潮が多いと指摘。セッションを通じ、教育に対して新たな視点に気づく時間となりました。	テーマ2 自分らしい人生のつくり方 秋庭 智也氏 (元陸別町地域おこし協力隊 一般社団法人寒冷地デザインセンター代表理事) 大切なのは好きなことを見つけること。好きなことだけで生きるのには難しいけれど、好きなこととできるだけ時間を割いて生きることはできる。秋庭氏は常に新しいものを探して、人生に起こる全てが楽しいという印象を受けました。「失敗したことはあまり覚えてない。」という言葉に強く印象を受ける参加者も多くいたようです。
テーマ3 教育現場の現状、学校について当事者が語る 石田 ろみ氏 榎見 育氏 中川 明日香氏 室田 涼夏氏 (札幌新陽高等学校 探究コース1年) 始めに「学校とはなにか？」をテーマにプレゼン。探究コースでの学びによっていかに自分が変化してきたかを生き生きと話す姿からは、自分たちの学校に対する信頼と感謝の念を感じ取ることができました。その後のグループディスカッションでは、参加者全員が積極的に自分の考えを伝え、世代の垣根を超えた深い議論になっていました。	テーマ4 びっくりドンキーの経営者はどのようなことを日々考えているのか? 庄司 開作氏 (えこりん村村長 株式会社アレフ常務取締役(COO)) びっくりドンキーでは食器など環境に配慮したものが使われており、えこりん村では子供たちに向けて自然体験プログラムを開催されているそうです。幼い頃から大好きな自然が破壊され、そして自然に触れたことのない子供たちがいることを知り、このような取り組みをされています。
テーマ5 教育改革を迎える中、学校について当事者が語る 井内 聖氏 (はやき子ども園園長 安平町災害ボランティアセンター副センター長) 胆振東部地震発生2日後からSNSを通じボランティアを受け入れた井内氏に、ボランティアセンターを立ち上げた経緯や、役立ったITなどについてお話をいただきました。アウトドア道具とITのマッチングで震災を乗り越えたということと新たな防災対応を発見する機会にもなりました。	テーマ6 けん玉けんちゃんと一緒に厚真を応援するプロジェクトを考えよう! 斎藤 烈氏 (厚真けん玉クラブ代表 厚真町教育委員会) 胆振東部地震発生時に子どもの居場所作りに尽力してきた斎藤氏が述べられた「でも、だって、だっどではなく、だからこそを大切に」という言葉が印象的でした。最後には、今後何とけん玉をコラボしたら面白いかを全体でディスカッションし、アウトプットまでできた濃い時間となりました。
テーマ7 災害ボランティアセンターの立ち上げから、次のステージへ 伊藤 聡氏 (一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校代表理事) 草野 竹史 (特定非営利活動法人ezorock代表理事) 東日本大震災後にさんつなを立ち上げた経緯や、ezorockとのつながり、金石の関係人口についてお話をいただきました。地域づくりを地域内だけで完結させるのではなく、外とのつながりと一緒にまちを作るという考え方が、日本の地域再生の鍵であるように感じました。	テーマ8 この20年、NPOは何を達成し、何が課題となっているのか?～世代を超えて大切にすべきことは～ 宮本 奏氏 (NPOファシリテーションきたのわ) 「世界一幸せな国」といわれるデンマーク。知的水準よりも個々の能力を最大限に伸ばすことに重きを置いた教育が行われていた。日本の教育の現状とデンマークとの差をお話いただき、その後、グループワークとして、生きにくさを感じたことや、理想の社会のあり方について意見を交わしました。
テーマ9 災害ボランティアセンターの立ち上げから、次のステージへ 小川 陽平氏 (株式会社オガワ代表取締役) プロジェクトとは何か、プロジェクトマネジメントとは何かについてお話をいただきました。プロジェクトという堅苦しいイメージを抱きがちですが、新婚旅行やRPGゲームを例にプロジェクトについて学びました。日常の様々なことをプロジェクトに置き換えて考えると、シンプルになってやるべきことが見えてくるのがわかりました。	テーマ10 つながり人口から関係人口へ～地域づくりへの新しい関わり方～ 草野 竹史 (特定非営利活動法人ezorock代表理事) 東日本大震災後にさんつなを立ち上げた経緯や、ezorockとのつながり、金石の関係人口についてお話をいただきました。地域づくりを地域内だけで完結させるのではなく、外とのつながりと一緒にまちを作るという考え方が、日本の地域再生の鍵であるように感じました。
テーマ11 ドラクエに学ぶプロジェクトの作り方 草野 竹史 (特定非営利活動法人ezorock代表理事) 東日本大震災後にさんつなを立ち上げた経緯や、ezorockとのつながり、金石の関係人口についてお話をいただきました。地域づくりを地域内だけで完結させるのではなく、外とのつながりと一緒にまちを作るという考え方が、日本の地域再生の鍵であるように感じました。	テーマ12 対話する力と議論する力と議論する力とまちづくりしよう～ファシリテーターの私が見ているもの～ 宮本 奏氏 (NPOファシリテーションきたのわ) 「世界一幸せな国」といわれるデンマーク。知的水準よりも個々の能力を最大限に伸ばすことに重きを置いた教育が行われていた。日本の教育の現状とデンマークとの差をお話いただき、その後、グループワークとして、生きにくさを感じたことや、理想の社会のあり方について意見を交わしました。

代表の小言

20年という歳月

RRSRが20回目を迎えます。今から夏が楽しみですね。私が参加した2000年のころは、会場があちこちにごみが散乱し「それが当たり前・・・」という状況でした。今では、本当にクリーンな会場になり、「社会って変わるもんだなあ」と感じていきます。

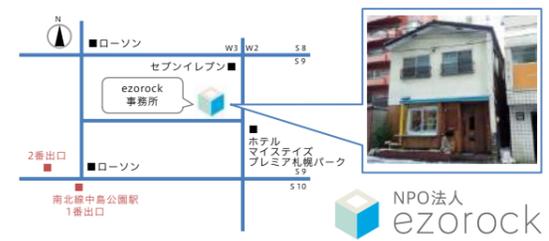
もう一つ、20年を迎えたのが、特定非営利活動促進法NPO法。1995年の阪神淡路大震災をきっかけに作られた法律で、現在ではNPO法人も5万団体を越え、社会の一部を担う存在にまでなってきました。

「NPOにかかわるなんて、特別な人たちがやっていること」なんてよく言われてきた常識も、もう昔話で、学校や仕事にいきながらNPOへ参加する若者も以前とは比べ物にならないくらいに増えて、そろそろ当たり前前のことになりつつあります。

時間はかかりますが、「今の非常識が、未来の常識」へと変化は作れるというのをもちっと多くのの人に伝えていきたいですね。

さてさて、次の20年はどんな世界になるのか?今から楽しみです。

草野 竹史



Rock The Life! ezorock

2019.5 vol.31



今月の写真 全プロジェクトから2018年度の活動写真を集めました。

環境対策活動 EarthCare

ごみの分別ナビゲートを通じ、Do It Yourself (D.I.Y.) の発信を、「ごみ」をツールとして行っている。



2018年総括: 昨年に引き続き「D.I.Y.」をテーマにRSR20年間のごみにまつわる歴史を振り返り、来場者のみなさんと次の20年に向けて私たちができる「D.I.Y.」を考えた。(もや)
活動日数: 8日(OKETO GREEN FESTIVAL・RSR'18・石狩さけまつり・創世スクエアHTBまつりなど)
活動人数: のべ544人
結果: RSRecoアクションキャンペーンブース1,064人
参加者の声: 初めてのRSR、初めてのボランティアだった。知らないものや知らない情報だらけだったが、周りのみんなに教えてもらったので、楽しめた。人が多いところで活動したので緊張で固まりそうだったが、その間もなく目の前のことに夢中になっていた。(10代女性)

ポロクル

2018年総括: 今年度は、初めて自主ツアーを企画、実施した。また、CO・OP共済と自転車マナーアップDAYを行い、多くの子もたちにシミュレーターやクイズを用いて、楽しみながら自転車のルール・マナーについて知ってもらった。(ゆうみん)
活動日数: 5日(さっぽろまちなかツアーなど) サイクルシェア「ポロクル」現場運営192日
活動人数: 47人
結果: さっぽろまちなかツアー参加者13人
参加者の声: 自転車マナーアップDAYでは反射神経ゲームや、自転車シミュレーターを通して自転車のルールマナーを伝えた。今年初めて行ったツアー企画では、札幌の魅力と共に自転車の快適さを伝えられた。(20代男性)

札幌の自転車問題の解決やまちの活性化を目指し、ルール・マナー啓発運動に取り組む。



大雪山国立公園旭岳自然保護プロジェクト

日本最大の国立公園である大雪山国立公園内旭岳にて「旭岳自然保護監視員」の方々と、自然保護活動を行う。



2018年総括: 受け入れ先のニーズに合わせて一回の活動人数を減らして活動を行った。それにより、チームとしての団結感が高まり一回一回が濃い活動となった。下山道や湿原の整備など新たな試みもあり、自然保護をより体感することが出来た。(かつけん)
活動日数: 28日
活動人数: のべ91人
結果: 自然保護の知識など活動の中で学んだことを活動後も使えるよう、冊子『ポケット旭岳』を作成した。
参加者の声: 管理する側に回って汗をかきながら活動するのは、新鮮かつ楽しかった。多くの団体・人々の協力で旭岳の自然保護が成立し、登山・観光客が快適に過ごせる環境が整備されていることを実感した。(20代男性)

ポラ旅北海道

2018年総括: 新たな連携先が増え、特に標津では地元の若者と札幌の若者が一緒にまちのことを考え、互いに有意義であったと感じられるプログラムが出来た。(たに)
活動日数: 129日(国立公園自然保護活動・森づくり活動・胆振東部地震支援活動・まちづくりプログラム・牧場作りなど)
活動人数: のべ520人
結果: 連携地域9市町村
参加者の声: 胆振東部地震支援活動で実施したプレーパークは、子どもが外で元気いっぱい遊んでいるだけでなく、親御さんも焚き火のまわりでお茶やお話をしていて和やかな雰囲気であったのが印象的だった。みんなが思い思いに過ごしている素敵な空間だと思った。(20代男性)

道内各地のNPOや市町村と連携し、教室で学んだ知識・技能を課題解決のための活動に生かすプログラムを実施する。



広報部

各プロジェクトチームの広報をサポートし、活動参加者ができるようにサポートを行う。



2018年総括: 今年は活動情報をまとめた紙面を月1回発行、Line@に投稿するなど新たな取り組みを行った。WEBへのアクセスも伸びているため、次年度も継続して取り組みを進めていきたい。
活動: ニュースレター発行2回 メールマガジン発行24回
結果: メールマガジン登録295人 Line@登録159人

交流部

プロジェクトを横断したつながりを持つ機会を提供し、情報共有や協力を生む。



2018年総括: ezorock内部のボランティア同士の交流の機会を今年度も創出した。日常では、コミュニティスペースをより快適に使用できるようにレイアウトを変更したり、必要な回収などを行った。
活動日数: 忘年会1日
活動人数: 忘年会29人

研修部

円滑に活動を実施できるように、スキルアップなどに関する研修プログラムを実施する。



2018年総括: 今年度は平日夜に知識・スキル向上のための連続講座GREEN Collegeを実施した。講座の内容検討に外部団体も巻き込みながら青年団体に必要なスキルを整理することができた。
活動日数: 10日(市町村ナイト・GREENDAY 2019・GREEN College 報告会)
活動人数: のべ295人

RSRオーガニックファーム

RSRで出た生ごみを自分たちの手で堆肥にリサイクル。堆肥を使用して栽培したじゃがいもを再びRSRへ。



2018年総括: RSRの「おかえりじゃがいも」が10周年を迎えた。じゃがいもの配布だけではなく、出店への参加など、来場者に活動をより知ってもらう機会を作ることができた。野菜定期配送システムの実施など、新たな取り組みをスタートした。(鮎)
活動日数: 体験ツアー12日 出店5日(アースデイ東京・RSR) ezorockキャンプ2日
活動人数: のべ146人
結果: RSRじゃがいも配布386人 野菜定期配送13人
参加者の声: じゃがいも掘りや、牛糞と生ごみを混ぜ合わせて肥料を作るなどの体験をした。この活動に参加することで、北海道らしい事ができたり、食の循環を知ることができたり、とても貴重な経験ができた。(20代女性)

石狩体験キッズ「チボロ」

2018年総括: 新しいフィールドとして、今まで生かすことの出来ていなかった場所を開拓し、子どもたちの体験の場を作りだした。参加者から体験の場や自由な空間を求める実際の声を聞き、活動を行う意味を再認識しました。(ゆみん)
活動日数: 16日(美登位の森のようちえん・はるき畑のようちえん・となりのピトイ・福島の子もたち北海道へ遊びに行こう!など)
活動人数: のべ114人
結果: 受け入れ子ども人数のべ223人
参加者の声: 子ども達の純粋な気持ちに触れることができとても楽しかった。子ども達が今でもこのキャンプのことを覚えてくれていたら嬉しい。(20代男性)

札幌近郊の石狩で、子どもたちの体験活動を行う。子どもたちに自然体験の「場」と「学び」を提供する。



プロジェクト「NINOMIYA」

石狩周辺の森に眠る未利用材の新作りを通して、都市部の若者に対して木、森、森づくりについて伝えていく。



2018年総括: 子どもから大人まで幅広い世代の方と一緒に薪割り体験を行った。道内各地に体験アクティビティのひとつとして薪割りを持っていくことで、より多くの人に森林について考える機会をつくることができたと感じている。(みーる)
活動日数: 新作ツアー69日 子ども体験受け入れなどのイベント8日(RSR・厚真町プレーパークなど)
活動人数: のべ299人
結果: 利用店舗5軒(Guest House waya・SappoLodge・UNTAPPED HOSTELなど) 個人宅23軒
参加者の声: 普段はデスクワークが多いので体を動かすことがストレス解消になる。元々体を動かす事が好きなので、定期的に活動に参加出来たら嬉しい。(20代男性)

澄川乾燥野菜研究所 Sumi Lab

2018年総括: 今年度は、年間を通して行うわくわく広場の参加者が100人を超える日があったりと色々発展があった。胆振東部地震後は乾燥野菜を現地に提供したり、乾燥野菜の製造レクチャーなども行なった。(寺ちゃん)
活動日数: 15日(澄川わくわく食堂 澄川ちよい飲み 澄川地区総合自主防災訓練)
活動人数: のべ40人
結果: 澄川わくわく広場参加者897名 胆振東部地震での炊き出しへの乾燥野菜の提供2.5kg
参加者の声: 乾燥野菜が防災の面でも日常生活の中でも、簡単に野菜の摂取が可能・長期保存が可能・野菜の旨味が感じられるなど、乾燥野菜の様々な可能性を知ることができた。(20代男性)

乾燥野菜は軽い、長持ち、手間いらず。防災だけではなく、日常でも使い勝手が良い乾燥野菜を普及させる活動を行う。



ezorockカレンダー

- 4月**
 - ・新作り・新配達活動(〜3月・石狩市)
 - ・澄川わくわく広場(〜3月・札幌市)
 - ・アースデイ東京出店(東京都渋谷区)
 - ・ポロクル現場運営(〜10月・札幌市)
 - ・FMアップラジオ放送(〜3月・札幌市)
- 5月**
 - ・むかわ川下りキャンプ(むかわ町)
 - ・オーガニックじゃがいも作り(〜11月・石狩市)
 - ・WONDER FOREST in さっぽろ(札幌市)
 - ・美登位の森のようちえん(〜11月・石狩市)
 - ・月に一度は森づくり(〜2月・苫小牧市)
 - ・中学生の宿泊研修受入(苫小牧市)
 - ・自転車マナーアップDAY(〜8月・札幌市)
- 6月**
 - ・ごみ拾いピーチウォーク(石狩市)
 - ・ひみつ基地キャンプ(苫小牧市)
 - ・コープの森植樹祭運営補助活動(当別町)
 - ・エコプラントフェア&LOPPISサマーマーケット(苫小牧市)
 - ・はまなすフェスティバル環境対策活動(石狩市)
 - ・はるき畑の幼稚園(〜10月・石狩市)
 - ・となりのピトイ(〜9月・石狩市)
 - ・大雪山国立公園旭岳自然保護活動(〜10月・東川町)
- 7月**
 - ・澄川地区自主総合防災訓練(札幌市)
 - ・SAPPORO♡BICYCLE DAYS(札幌市)
 - ・イコ口の森のようちえんKorokko(〜1月・苫小牧市)
- 8月**
 - ・中国杭州親子キャンプ(苫小牧市)
 - ・Rising Sun Rock Festival 2018 in Ezo環境対策活動(石狩市・小樽市)
 - ・福島の子もたち北海道へ遊びに行こうツアー(石狩市・栗山町)
 - ・積丹ボタニカルツアー(〜9月・積丹町)
- 9月**
 - ・広野・清川児童保育センター合同環境教室(帯広市)
 - ・西当別児童会館受け入れ(石狩市)
 - ・胆振東部地震支援活動(〜3月・安平町・厚真町・むかわ町)
 - ・石狩さけまつり環境対策活動(石狩市)
- 10月**
 - ・標津まちづくりプロジェクト(標津町)
 - ・さっぽろまちなかツアー(札幌市)
 - ・創世スクエアHTBまつり環境対策活動(札幌市)
 - ・復活!北の収穫祭フインターニバル環境対策活動(小樽市)
 - ・知床国立公園自然保護プロジェクト(斜里町・羅臼町)
 - ・澄川ちよい飲み(札幌市)
 - ・栗山里山づくりプロジェクト(栗山町)
- 11月**
 - ・北海道青少年基金顕彰
 - ・未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー内閣総理大臣表彰
- 12月**
 - ・GREEN COLLEGE(〜2月・札幌市)
 - ・Rock the Night Vol.1(札幌市)
- 1月**
 - ・定山溪ウィンター・キャンプ・フェスティバル(札幌市)
- 2月**
 - ・馬と森づくり・馬搬ボランティア(苫小牧市)
 - ・GREENDAY2019(札幌市)
 - ・羅臼あそび!キャンプ(羅臼町)
 - ・ezorock2018報告会(札幌市)
- 3月**
 - ・厚真ナイト(札幌市)
 - ・長万部ナイト(札幌市)
 - ・占冠メーブルツアー(占冠村)
 - ・春の支笏湖カルデラ親子キャンプ(千歳市)

ezorockは2018年度も道内様々な市町村で活動を展開しました。その中でも、これまでの経験が生きた場面、これまでの活動実績が評価される場面がありました。2018年度の特に大きい出来事を報告します。

Topics 1 胆振東部地震支援活動

2018年9月6日、胆振東部地震発生。2日後の9月8日以降、胆振東部3町(安平町・厚真町・むかわ町)で79日、のべ373人のボランティアが様々な活動を展開しました(2018年度末現在)。これまで実施したRSRでの環境対策活動での本部設営に関わるノウハウや備品、ふくしまキッズや薪割り体験をはじめとする子どもの自然体験活動、乾燥野菜の製造…。そして何よりも、被害が大きかった地域で日常的に活動を展開していたポラ旅北海道での連携。これらが揃ったことで、現地での活動をスムーズに、そして刻々と変化するニーズに対応して活動を展開することができました。一部ではありますが、これまで実施した活動をご紹介します。

なお、本活動は、社会福祉法人中央共同募金会、独立行政法人環境再生保全機構、特定非営利活動法人北海道NPOファンド、特定非営利活動法人いぶり自然学校、公益社団法人Civic Force(緊急即応チーム)、多くの皆様の助成・ご寄付を受けて実施しました。ご支援いただいた皆様に深く御礼申し上げます。

また、社会福祉法人安平町社会福祉協議会より、本活動に対して感謝状を頂戴しました。



▲ポラセン立ち上げ(安平町)



▲子どもの居場所作り(厚真町)



▲頂戴した感謝状(安平町)

これまでの活動(一部)

- 9月8日〜9月14日 安平町ボランティアセンター立ち上げ
- 9月9日〜11月24日 厚真町子どもの居場所づくり(ハッピースターランド)
- 9月12日〜9月24日 厚真町こども園・児童クラブ支援
- 9月24日〜10月30日 むかわ町児童クラブ支援
- 11月3日〜3月27日 ふくしまキッズアドバンス
- 12月17日〜3月31日 厚真町乾燥野菜普及活動
- 12月22日 厚真町ポラセン振り返りサポート
- 12月23日 厚真町みんなのひろば
- 1月26日〜1月27日 厚真町豊川サロンポスティング
- 2月24日 厚真町新鮮組あつまるくんチャレンジ

Topics 2 受賞報告

2018年11月9日に公益財団法人北海道青少年育成協会より平成30年度北海道青少年基金顕彰、2018年11月21日に内閣府より平成30年度未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー内閣総理大臣表彰をそれぞれ受賞しました。いずれも、これまでの様々な活動が評価され、受賞に至りました。



▲北海道青少年基金顕彰



▲未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー

ご寄付・助成金 報道採録

- ◆ご寄付(敬称略)
 - ・あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
 - ・日本基金ハビほん(NORTH CREATE)
 - ・合同会社もりのひと
 - ・株式会社グランマ
 - ・特定非営利活動法人ねおす共済ファンド
 - ・その他、個人のみなさま
- ◆助成金(敬称略)
 - ・独立行政法人環境再生保全機構
 - ・セブン-イレブン記念財団
 - ・北海道労働金庫
 - ・特定非営利活動法人北海道NPOファンド
 - ・独立行政法人国立青少年教育振興機構
 - ・社会福祉法人中央共同募金会
 - ・一般財団法人北海道青少年育成協会
- ◆紙媒体
 - ・4月13日 北海道新聞(理事 國塚)
 - ・6月1日 星園通信(ezorock)
 - ・8月 ふりっばー8月号(RSR)
 - ・9月13日 アルキタ(RSR)
 - ・11月24日 北海道新聞(代表理事 草野 職員 崎川)
 - ・12月 月刊イズム(代表理事 草野)
 - ・2月7日 北海道新聞(代表理事 草野)
 - ・2月 みんなのしみサボ(職員 水谷)
 - ・3月 地球環境基金便り(代表理事 草野)